

平成 30 年度 鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム
地方創生活動部門

成果報告書

鹿児島大学 産学・地域共創センター COC グループ

平成 3 1 年 3 月

はじめに

鹿児島大学は、平成 26 年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業 (COC 事業)」に「火山と島嶼を有する鹿児島の地域再生プログラム」が採択され、同年 10 月に「かごしま COC センター」を設置し、活動を行って参りました。本学では、鹿児島県域の特徴的な地域課題である農林畜産業、水産業、地域教育、エネルギー、地域防災などに関する研究に取り組んでおり、その研究成果を約 2,000 名の 1 年生を対象とした全学必修共通教育科目「大学と地域」の授業内容に反映させ、地域志向人材育成の基盤となる教育カリキュラムを実施しています。

また、地域貢献を標榜する大学として、平成 28 年度には、学生による県内自治体や企業等と連携した地域貢献活動を支援するため、「鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム地方創生活動部門」を創設しました。本事業は、鹿児島大学学生憲章(平成 22 年 11 月 15 日制定)の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施する諸活動の支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践していくことによって本学における進取の精神を継承することを目的としております。これまでに 17 団体 145 名の学生がこの事業に取り組んでいます。

地域志向型の教育カリキュラムによる修学に加え、学生が自主的に県内自治体等と連携し地方創生活動に取り組むことは、地域に根ざした人材を育成するとともに地域活性化への貢献に寄与するものと考えております。また、活動終了後は学内教職員、学生、自治体職員等が参加する成果発表会を開催し、このような活動が地元企業と学生団体とのマッチングにつながった例もあり、学生の地元就業率向上も期待されるところです。

本報告書は、平成 30 年度に採択された 4 団体の活動成果を纏めました。学生が活動するにあたりまして、多く関係者の皆様にご協力をいただいたことに深く感謝を申し上げます。

これからも地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として進取の気風にあふれる総合大学を目指して、地域課題への取組をより一層推進して参ります。鹿児島大学の様々な活動につきまして、ご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

鹿児島大学学長補佐(COC 担当) 木村 郁夫

目 次

1 はじめに	
2 目次	
3 成果発表会開催記事（3月8日開催）	1
4 発表会 開催要領	2
5 成果発表会チラシ	3
6 各団体の活動概要・成果発表資料	
(1) キャッサバを活用した徳之島の地域住民と学生による地域活性化プログラム （第7回南米研修チーム）	5
(2) WEB の力で地域・学生・大学をつなぐ！（ Palmy / KADAIINFO ）	20
(3) 八重山高原星物語 2018（八重山高原星物語学生運営委員会）	30
(4) 未来を繋げ！鹿児島大学医療系学生発『こどもむりよう塾』 （MIRAI WO TSUNAGU）	39
7 平成 30 年度 募集チラシ	67
8 平成 30 年度「鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム」募集要項	68
9 鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム実施要項	70
10 鹿大「進取の精神」支援基金規則	72
11 鹿児島大学学生憲章	73

平成30年度 鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム

『地方創生活動部門』 成果発表会開催

鹿児島大学は、3月8日（金）に進取の精神チャレンジプログラム「地方創生活動部門」成果発表会を開催しました。本プログラムは、平成25年度から実施し、学生自らが企画・運営・実施する様々な活動に対して支援を行うもので、平成28年度からは学生が県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を支援するため「地方創生活動部門」を新たに創設し、今年で3回目を迎えました。

今回は11団体から応募があり、4団体が採択され、創設以来、本プログラムを通して17団体、145名の学生が地域課題の解決あるいは地域の活性化に主体的に取り組んできました。

成果発表会には32名（自治体から4名含む。）が参加し、学生の取組に対してご意見をいただき、今後の活動展開に向けて励みとなる機会になりました。

なお、最優秀賞は、「MIRAI WO TSUNAGU」（団体名）が実施したプログラム「未来を繋げ！鹿児島大学医療系学生発『こどもむりょう塾』」に、他の団体には優秀賞が授与されました。

会の最後に学長からは、「プログラムを地域と連携して進めていること、社会情勢を踏まえた企画力溢れる取組であることを大いに評価します」との講評（謝辞）が述べられました。



写真上：発表風景（最優秀賞「MIRAI WO TSUNAGU」）

写真下：受賞者との記念撮影

平成 30 年度 鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム 「地方創生活動部門」成果発表会 開催要領

1 開催趣旨

今年度の採択プログラムに取り組んだ4団体の学生による成果発表会を開催し、学生の取組を讃えるとともに、次の効果も目的とする。

- ・多くの学生が本プログラムをはじめ各種の地域貢献活動に積極的に参加する機運を醸成する。
- ・発表と審査・表彰、意見交換により、学びをより確かなものとし、他団体の発表を聞くことによる気づきと取組を振り返る機会とする。
- ・自治体関係者など大学関係者以外の意見や評価を受ける機会を設けるとともに、広く地域の方々に本学の取組を周知する機会とする。

2 開催内容

(1) 日 時 平成31年3月8日(金) 14:00~15:30

(2) 場 所 学習交流プラザ2階 学習交流ホール

(3) 出席者

- ①学長、理事・副学長(研究担当)、理事・副学長(教育担当)、副学長(社会貢献推進担当)、学長補佐(COC担当)、学長補佐(防災担当)、研究推進部長
- ②プログラム採択団体(4団体)
- ③本学学生、教職員
- ④県内自治体、企業等

(4) 式次第

- ・開会
- ・開会挨拶(学長補佐(COC担当))
- ・活動成果の発表(1団体15分(発表10分、質疑5分))
- ・意見交換(全体に対する意見、来年度に向けた要望等(10分))
- ・表彰状授与
- ・学長講評
- ・閉会 ※終了後、記念撮影

3. 発表団体(「プログラム名」団体名)

- (1)「キャッサバを活用した徳之島の地域住民と学生による地域活性化プログラム」第7回南米研修チーム
- (2)「WEBの力で地域・学生・大学をつなぐ!」Palmy
- (3)「八重山高原星物語2018」八重山高原星物語2018 学生運営委員会
- (4)「未来を繋げ!鹿児島大学医療系学生発『こどもむりょう塾』」MIRAI WO TSUNAGU

4 広報について

- ・プレスリリース:2月中旬予定
- ・自治体及び企業団体への周知は産学・地域共創センターに依頼予定

5 参考

鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラムとは、学生憲章の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施する様々なプログラムへの支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践していくことによって本学における進取の精神を継承することを目的として、平成25年度から始まった企画である。

平成28年度からは、学生が県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を支援するため、「地方創生活動部門」を創設した。



平成30年度 鹿児島大学 進取の精神チャレンジプログラム 地方創生活動部門 成果発表会



日時：平成31年3月8日（金） 14：00～15：30

会場：鹿児島大学 学習交流プラザ2階 学習交流ホール

順番	プログラム名	団体名	連携協働先
1	キャッサバを活用した徳之島の地域住民と学生による地域活性化プログラム	第7回南米研修チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・徳之島マンジョッカ生産組合会長 ・カネタ鉄工株式会社代表取締役 ・天城町保健福祉課係長
2	WEBの力で地域・学生・大学をつなぐ！	KADAI INFO (Palmy)	産学・地域共創センター連携推進部門 COC+グループ
3	八重山高原星物語2018	八重山高原星物語学生運営委員会	薩摩川内市入来支局 地域振興課
4	未来を繋げ！鹿児島大学医療系学生発『こどもむりよう塾』	MIRAI WO TSUNAGU	社会福祉法人鹿児島市社会福祉協議会ボランティアセンター

※学生の活動支援には、鹿大「進取の精神」支援基金を活用しています。

この基金は、本学が地域活性化の中核的拠点の構築を目指し、また世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に必要な支援を行い、「自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する」ことを目的としています。



学生が自分たちで企画・実施した地域貢献プログラムの活動成果を発表します。

どなたでも自由にご参加ください。

参考：

鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラムとは、学生自らが企画・運営・実施する様々なプログラムを通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践することによって本学における進取の精神を継承することを目的として、平成25年度から始まった企画である。
平成28年度からは県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を支援するため、「地方創生活動部門」を創設した。

【問合先】

鹿児島大学 社会連携課
産学・地域連携係

TEL 099-285-7104

平成30年度 鹿児島大学 進取の精神チャレンジプログラム
地方創生活動部門 成果発表会

No	時間 (予定)	グループ名	プログラム名	プログラム概要 (「企画書」抜粋)
1	14時5分～	第7回南米研修チーム	キャッサバを活用した徳之島の地域住民と学生による地域活性化プログラム	徳之島では近年キャッサバ(学名:Manihot esculenta)栽培が広がりを見せている。本プログラムでは、キャッサバの原産地であるブラジルアマゾンを訪れ、調理方法や食文化に関する調査を実施する。調査結果を踏まえ、徳之島のキャッサバを活用した地域活性化プロジェクトを生産者らと協働して企画・立案する。
2	14時20分～	Palmy (KADAIINFO)	WEBの力で地域・学生・大学をつなぐ!	WEBサイト上で地元企業に関する情報を発信し、学生に鹿児島の企業を認知してもらい、また、鹿児島の企業で働く社会人と本学学生が交流することができるイベントを企画する。その活動の過程においてWEBサイトのコンテンツの充実を図り、本学学生と地域(企業)、大学を繋ぐプラットフォームの構築を目指す。
3	14時35分～	八重山高原星物語 学生運営委員会	八重山高原星物語2018	八重山高原の美しい自然環境に囲まれた本学農学部附属入来牧場には、国立天文台のVERA20m電波望遠鏡および本学の1m光赤外線望遠鏡があり、世界的な天文観測研究を行っている。本イベントは、国立天文台やNPO法人、地元関係者との連携により、宇宙観測施設の見学会やミニ科学実験、ミニ講演会を行う。
4	14時50分～	MIRAI WO TSUNAGU	未来を繋げ! 鹿児島大学医療系学生発『こどもむりょう塾』	鹿児島大学の医療系学生を主体として鹿児島県内に住む経済的・環境的に恵まれない子どもたちへ向けた「こどもむりょう塾」を開催することで、子どもと大学生と双方の接点を作り、勉学面の支援を中心に社会や健康への関心を持ってもらえるような支援を行う。

平成30年度鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム 「地方創生活動部門」成果報告書



- (1) プログラム名: キャッサバを活用した徳之島の地域住民と学生による地域活性化プログラム
グループ名 : 第7回南米研修チーム

【概要・目的】

徳之島では近年キャッサバ(学名: Manihot esculenta)栽培が広がりを見せている。また、キャッサバを頻繁に食するベトナム、フィリピン、ブラジル人等の外国人人口も日本国内では増加の一途をたどっており、そのニーズは大きいと言える。しかしながら、徳之島のキャッサバの調理・栽培方法等は未だ確立されておらず、発展可能性がある。

そこで本プログラムでは、徳之島での現地調査を踏まえたうえで、今年の夏の集中講義(南米における進取の気風研修計画)にキャッサバの原産地であるブラジルアマゾンを訪れ、調理方法や食文化に関する調査を実施する。そして、調査結果を踏まえたうえで、徳之島のキャッサバを活用した地域活性化プロジェクトを生産者らと協働して企画立案する。

【活動内容】

2018年7月に、徳之島でキャッサバ栽培を進める、マンジョッカ生産組合会長、及び徳之島で生産されたキャッサバの商品化を図っているあまみ徳之島絆ファームの元を訪れ、圃場の見学やヒアリングを行った。

その後、9月には、徳之島での現地調査を踏まえた上で、キャッサバの原産地であるブラジルを訪問し、調理方法や食文化に関する調査を実施した。

そして、翌年2月に徳之島に再度訪れ、徳之島島内の生産者を集め、帰国報告会を実施した。そこでは、ブラジルでの調査結果を踏まえたうえで、徳之島のキャッサバを活用した地域活性化プロジェクトの提案を行った。

【効果・成果】

- ・地域の方との交流、徳之島及びブラジルでの現地調査を通して、研修へ参加した学生の成長が見られた。
- ・帰国報告会の実施により、徳之島内の生産者にキャッサバに関する情報を提供できた。また、生産者のキャッサバ栽培に対する関心を高めることに寄与した。

【今後の計画、展望等】

今回の徳之島での現地調査を通して、徳之島でキャッサバを栽培するにあたっての技術的課題が見つかった。そのため、今後キャッサバを用いた地域活性化を目指すうえでは、これの解決が不可欠である。そのため、研究機関である我々大学側と徳之島の生産者との技術的連携を図れるようにしたい。

キャッサバを活用した 徳之島の地域住民と 学生の地域活性化プログラム

第7回南米研修チーム

連携協同先

- 徳之島マンジョッカ生産組合会長
- カネタ鉄工株式会社代表取締役
- 天城町保健福祉課係長
- あまみ徳之島絆ファーム

日程・活動概要

徳之島での事前調査 2018年7月

- ・徳之島でキャッサバ栽培を進める、マンジョッカ生産組合会長、及び徳之島で生産されたキャッサバの商品化を図っているあまみ徳之島絆ファームの元を訪れ、圃場の見学やヒアリングを行った。

ブラジルでの現地調査 2018年9月

- ・徳之島での現地調査を踏まえた上で、キャッサバの原産地であるブラジルを訪問し、調理方法や食文化に関する調査を実施した。

徳之島での帰国報告会 2019年2月

- ・徳之島島内の生産者を集め、帰国報告会を実施した。そこでは、ブラジルでの調査結果を踏まえたうえで、徳之島のキャッサバを活用した地域活性化プロジェクトの提案を行った。

背景

- ・近年、徳之島ではキャッサバ栽培が広がりつつある。
- ・日本国内において、キャッサバを頻繁に食する、外国人人口が増加の一途を辿っている。

・ニーズの高まりに対して、徳之島のキャッサバの調理・栽培方法などは未だ確立されておらず、発展可能性がある。

- ・徳之島での現地調査を踏まえた上で、キャッサバの原産地であるブラジルアマゾンを訪れ、現地調査を行う。
- ・調査結果を踏まえた上でキャッサバを活用した、地域活性化プロジェクトの企画立案を目指す。

キャッサバ概要

- 南米原産の熱帯低木
- 世界中の熱帯地域で広く栽培されている
- 6か月～1年でイモを収穫

短所

- 低温・湿害に弱い
- イモはシアン系の毒を含むため、毒抜きが必要

長所

- 栽培が簡単で、苗木を地中に挿すだけで発根・生育する
- 不良環境下(高温、乾燥、酸性土壌)に強い



徳之島での事前調査 (2018.7月)



生産者にヒアリング



圃場の見学

徳之島での調査結果

- 調理方法をはじめとするキャッサバの利用方法の情報が不足。
- キャッサバ栽培の技術的知識の不足。
- 台風、冷害など、徳之島の地理的被害の対策。

ブラジルでの調査内容

- ①調理法、食文化の体験および学習。
- ②キャッサバの圃場の見学

報告会in 徳之島

(協賛：あまみ徳之島絆ファーム)

鹿児島大学 ブラジル・ウガンダ研修報告会in徳之島

日時：2月3日(日)13:00～
場所：農協会館2階大ホール

参加無料

キャッサバ・コーヒー栽培農家の方！

話だけでも聞いてみたい方！

これらの栽培に興味のある方！

皆様とお会い出来るのを楽しみにしています！

鹿児島大学の学生達が、南米のブラジルとアフリカのウガンダで見たキャッサバやコーヒー栽培の現状についてお話しします！異国の地に足を運び、現地の方々との交流を通して何を感じたのか、今回の経験を徳之島にどのようにして活かすことが出来るのかを、島民の皆さんと共有することができたらと思います！

主催：鹿児島大学南米研修チーム
協賛：(合)あまみ徳之島絆ファーム 担当：関根 0997-84-0086

報告会の概要

・ブラジルでの調査内容の報告
→キャッサバの調理法および食文化

・徳之島でのキャッサバ栽培の可能性、
実現化に向けての提案



ブラジルでのキャッサバ利用法

11



ファリーニャ

- ・キャッサバをすりおろして乾燥させた粉。
- ・栄養分：デンプン
- ・ブラジルの食事には不可欠。
- ・料理内容問わず、かけて食べる。
(お肉、パスタ、ご飯、サラダなど)



12



タピオカ

- ・タピオカ粉をフライパンで焼いたもの。中に好んでチーズやハム、バナナなどを挟んで食べる。
- ・グルテンフリーで健康的。
- ・各家庭では朝食として、また軽食として外で食べることも。



13



タピオカの屋台

- 1、「屋台」に向いている。
 - ・調理が容易で、時間もかからない。
 - ・コストが低い。
 - 2、需要が見込める。
 - ・グルテンフリーで健康的。
- 小麦アレルギーの方や健康志向者からのニーズがある。
- ・具材のチョイスが多様。
- 老若男女全ての層をターゲットに。



http://magazinesummit.jp/travel_gourmet/16737131609
21

14

● キャッサバの煮物



● マニコバ
(キャッサバの葉の煮込み料理)



● キャッサバの焼酎



ポン・デ・ケージョ (キャッサバ粉のチーズパン)



徳之島での可能性

● 不可欠な要素

1. 販売先の確保（需要の把握）
2. 安定供給

● 販売先の確保（需要）

- 在日外国人**28万人**からの需要

→**生のキャッサバを食べたい！！**

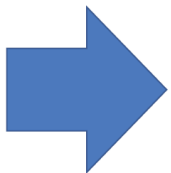
- 法律により、生のキャッサバ芋の輸入は不可。

● 安定供給のための課題

- キャッサバ農家数（生産量）が少ない。
 - 台風被害
 - 冷害
 - キャッサバの特性
- （足が早いため、収穫を1度に行えず、こまめな収穫が必要）

● まとめ

- 国内でのキャッサバ需要が高まる中、安定供給できる体制が整っていない。



技術的支援が不可欠。

報告会後のアンケート

徳之島の生産者を中心に集客し、26人の方々からアンケートの回答をいただいた。
以下が、その回答の一例である。

- ・奄美地域の気象条件に適した作物の提案は良かった。気象災害対策が最大の課題であるのでその解決が今後の取り組みのキーになると感じた。
- ・大学生の研修を多くの人に還元して頂き感謝します。大学生にとっても地域の知るところが一番大切な取り組みだと思いました。学生皆様が今後地域で活躍してくれるのが楽しみです。
- ・一度キャッサバというのを見て触れてみたいと思った。

今後の課題（アンケート結果から）

・安定供給

- 1、台風被害、冷害などの環境条件への対策
- 2、キャッサバ栽培の技術指導

・販売先の確保

- 1、在日外国人を中心とした販路先の確保
- 2、輸送、保存などの方法の検討

今後の可能性

今回の徳之島での現地調査を通して、徳之島でキャッサバを栽培するにあたっての技術的課題が見つかった。

→研究機関である我々大学側と徳之島の生産者との技術的連携を図れるようにしたい。

成果

・ 報告会実施により理、徳之島の生産者にキャッサバ栽培のPRを行えた。

・ 徳之島でのキャッサバ栽培に関する技術的課題を明確にし、研究機関（大学）との技術的連携の可能性を高めた。

・ キャッサバの原産国、ブラジルにおけるキャッサバの利用法を紹介し、徳之島の生産者にキャッサバの価値を伝えた。

・ 徳之島およびブラジルでの現地調査を通して、学生の成長が図られた。

引用

- <https://www.youtube.com/watch?v=7xOVI96eBy0&feature=youtu.be&fbclid=IwAR2V6k5OM0M3TJuuCwr1s1V2exe-Qx9ZtHjwUKPFPDZd28S00GwFIUEWC8o>
- <https://cookpad.com/recipe/797854>



ありがとうございました！！



平成30年度鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム 「地方創生活動部門」成果報告書



- (2) プログラム名：WEBの力で地域・学生・大学をつなぐ！
グループ名：Palmy

【活動目的】

現在、鹿児島県における課題として人口流出・若者の県外就職による企業の衰退・少子高齢化があげられる。それを食い止める1つの方法が、地域就業を推進し、少しでも多くの鹿児島大学生が県内に就職することだと考えられる。

私たちPalmyは、鹿児島大学生のためのwebメディア“KADAI INFO”を運営しており、2018年4月には月間PV数(閲覧数)約7万件を獲得し、多くの本学学生へ学内及び鹿児島の情報発信を行っている。

この強みを活かして、webサイト上での地元企業に関する情報発信により、学生に鹿児島の企業を認知してもらうとともに、鹿児島の企業で働く社会人と本学学生が交流することができるイベントの開催を企画する。

内容としては、これまで日常的かつ直接的に学生へアプローチすることが少なかった、鹿児島の企業のインターンシップ情報や人事担当者のインタビュー記事等を作成し、web上で発信する等、これらに関する記事を充実させる。このことで、本学学生の県内企業への興味、関心を高めることに寄与する。

併せて、インタビュー記事等で協力いただいた県内企業と学生との交流イベントを開催することによって、学生が地域就業のイメージを描くことができるようにする。その成果として、学生と地域(企業)をつなぐためのwebを活用した「地域人材プラットフォーム」の構築を目指す。

【活動内容】

- ①鹿児島県内企業の紹介記事の執筆及び地域就業に関する情報発信
- ②“KADAI INFO”協力企業及び本学学生をつなぐ交流イベントの実施

【効果・成果】

①“KADAI INFO”における県内企業紹介により、多くの学生が鹿児島県内企業を知ることにつながった(総閲覧数4000件:昨年8月以降)。このことにより、学生による県内企業の認知度向上に寄与したものと考えられる。

②県内企業人と本学学生との交流イベント実施(企業7人、学生27人参加)により、参加学生には地域就業の魅力などを具体的に知る機会を提供できたとともに、キャリア形成に関する進路選択の可能性を広げることに寄与できた。併せて、参加者間のネットワーク構築に成功した。

【今後の計画、展望等】

今回関わった企業様以外にもKADAI INFO と交流のある企業を増やすことで、鹿児島大学生との繋がりができるような土台づくりをして、「鹿児島で働く」こと提案をする。そのために今回と同様のイベントを継続して行うとともに、サイト上の記事での情報発信も継続する。

また、現在KADAI INFO内で企画中の、新学期配布予定のフリーペーパー作成、学生の情報収集スタイルの変化に合わせた動画コンテンツの提供を通じて、これまで以上に学生のニーズに沿った情報提供を行う。

KADAI INFO

~WEBの力で地域・学生・大学をつなぐ~

BY Palmy

1

KADAI INFOとは？
What is “KADAI INFO”?

KADAI INFO

=鹿児島大学を

もっと「おもしろく」するための

鹿児島大学生向け**WEBメディア**。

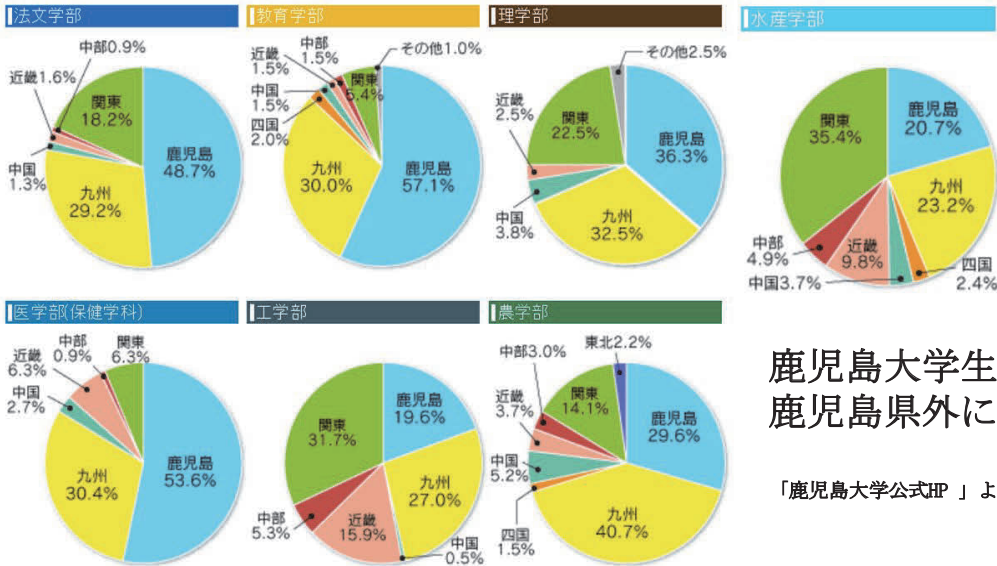


2

鹿児島県の課題

Kagoshima no kadai

若者の県外流出



鹿児島大学生の半分以上が鹿児島県外に就職している。

「鹿児島大学公式HP」より引用

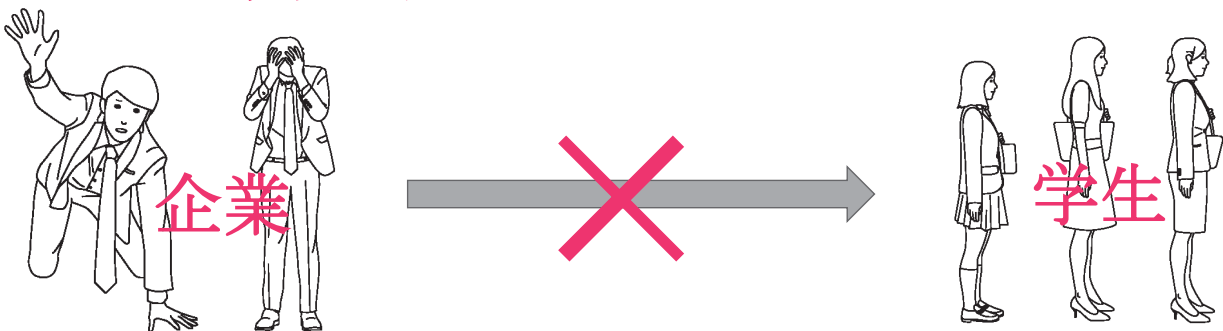
企業の課題

Kigyo no kadai

【要因】

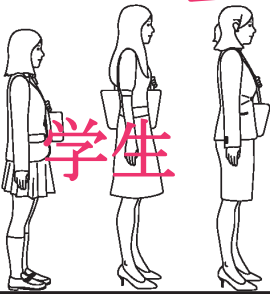
学生へ向けて効果的に

情報を伝えることができていない



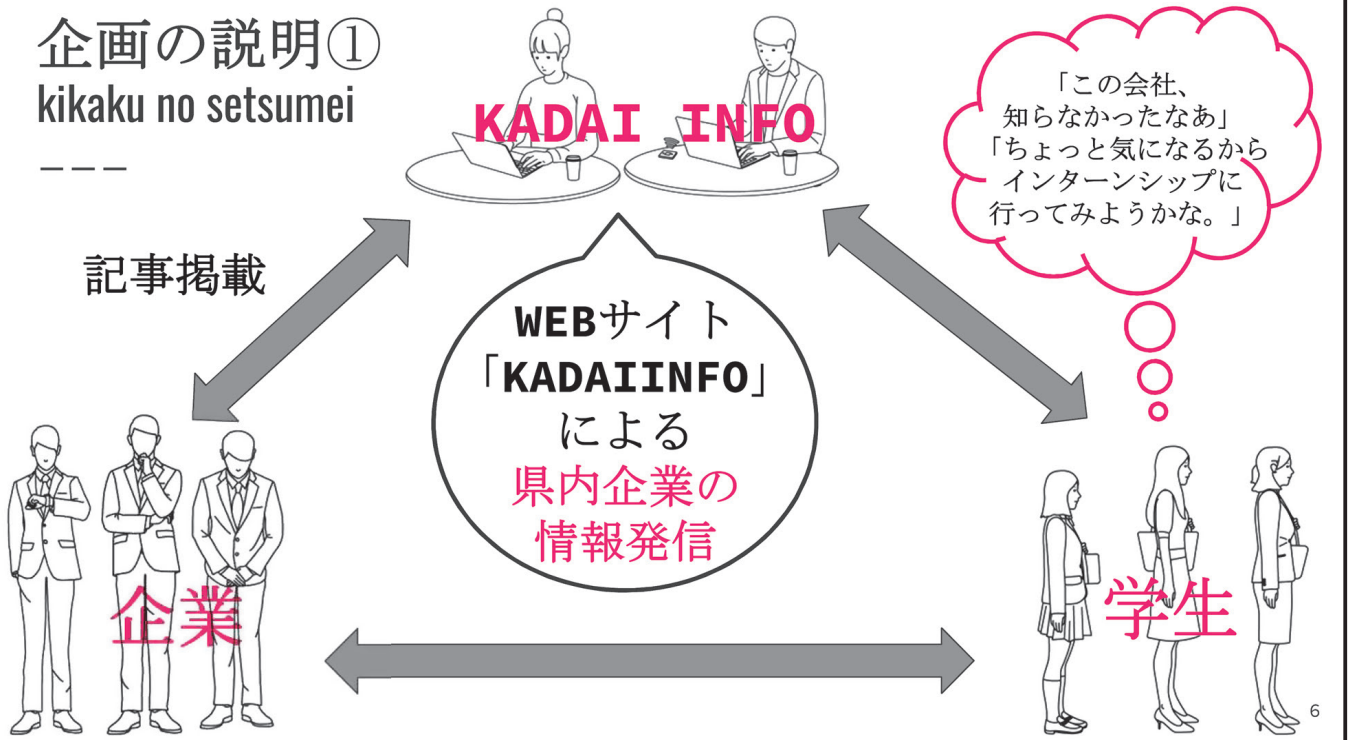
企業の課題 Kigyo no kadai

「鹿児島にはどんな企業があるのかわからない・・・」
「鹿児島の企業がどのような取り組みをしているのかの情報
が検索しても出てこない・・・」
「調べようがない・・・」



5

企画の説明① kikaku no setsume



6

企画の説明②

kikaku no setsumei

【学生目線だからできる就活のイベント実施】

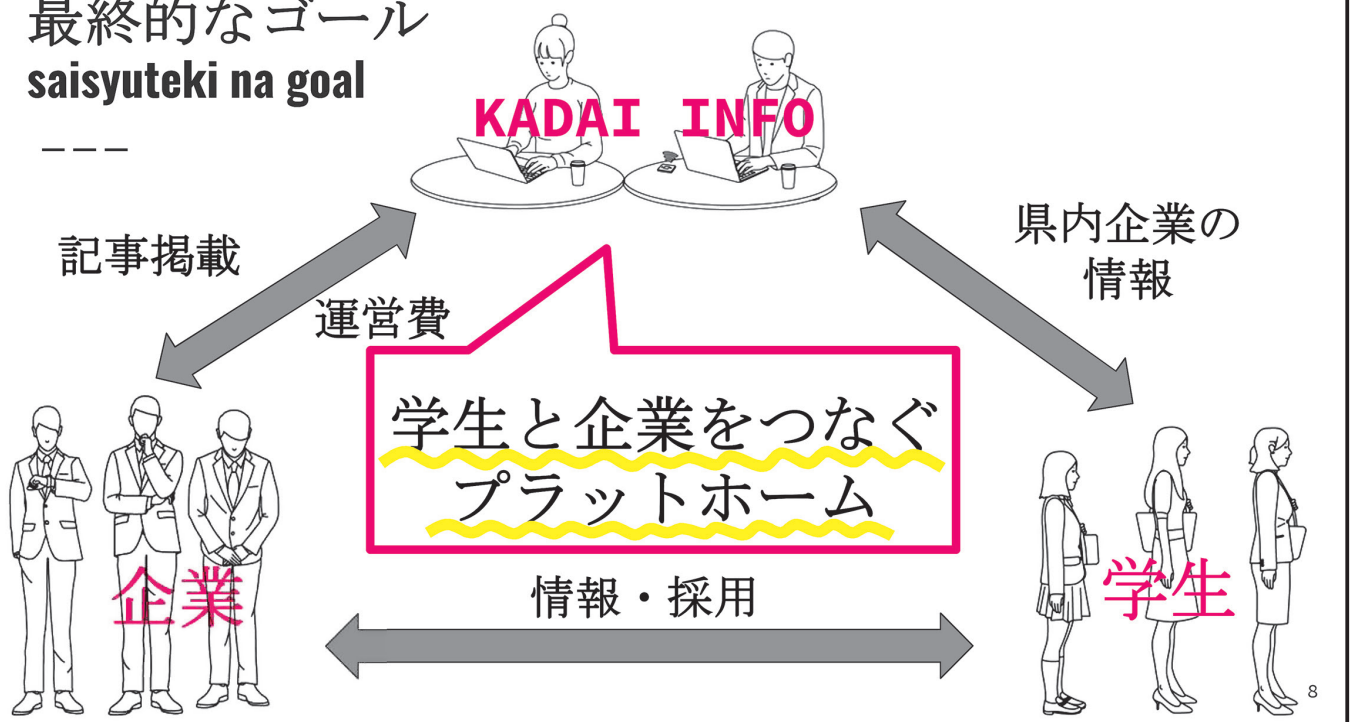
記事作成で関わることができた企業と

共同で就活イベントの開催。

- ユニークな働き方をしている社会人のお話 → 鹿児島で働くイメージ
- イベントの様子をSNSで発信し、
学外に鹿児島大学での取り組みを知ってもらう

7

最終的なゴール saisyuteki na goal



活動報告② KADAI TGIF vol.4

「社会人って面白いの？」～社会人と学生の交流イベント～

2019年1月17日



参加者全員でアイスブレイク
☆

11



参加企業の紹介プレゼン☆

* 参加企業 *

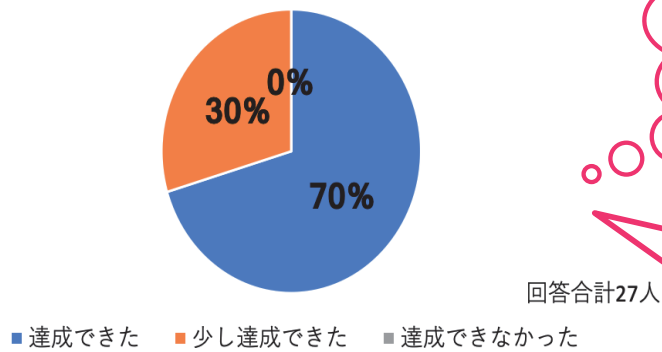
- ・ 富士通鹿児島インフォネット
- ・ リコーITソリューションズ
- ・ JR九州エージェンシー
- ・ アミュプラザ鹿児島
- ・ 南日本放送 (MBC)

12

成果報告① アンケート結果

* イベント終了後に、参加企業と学生にアンケートを実施。

イベント参加目的の達成度について (学生)



* 参加目的

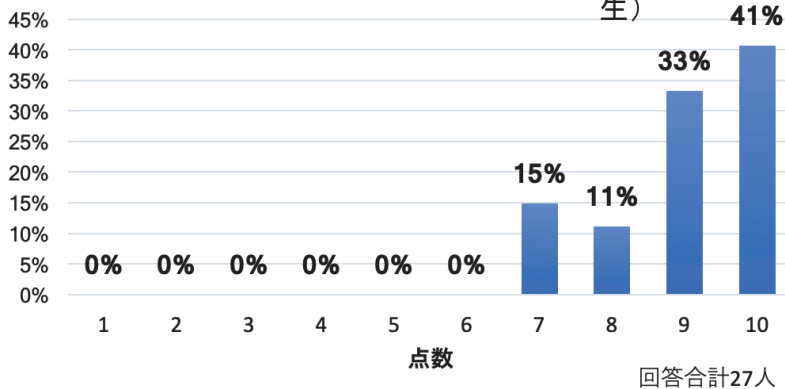
- ・ 社会人との交流機会
- ・ 社会人のリアルな話
- ・ 仕事に対する考え方
- ・ 様々な企業の理解 など

多くの学生が自身の設定した目的を達成。

13

成果報告② アンケート結果

本イベントの点数について (学生)



* 印象的だった企業について *

- ・ **「企業」の理解**
事業内容の幅広さ
企業イメージの変化
他企業との連携
- ・ **「社会人」の理解**
楽しく仕事をする姿
ユニークな働き方
専攻分野とキャリアの関係
など

14

改善点と改善策

- ・ 比較的真面目なイベントだと思った
→ 他にはない斬新なイベント内容にする（アイスブレイク・交流方法の工夫）
- ・ 交流会での工夫があればいいと思った
→ あらかじめ質問項目を用意する
- ・ 告知の工夫があるといいと思った
→ SNS、チラシ、貼り紙など様々な媒体を使って多く目にするようにする

15

今後の計画・展望 Kongo no keikaku tenbo

16

今後の計画・展望 ～プラットフォームとしての役割の拡大～

KADAI INFOの現在

- ・ タイアップ記事
- ・ バナー広告
- ・ 各種SNSでの告知
- ・ イベント企画・運営



- ・ サイトを訪れる学生への継続的な企業・業界情報の提供
- ・ 社会人と直接交流できる機会の提供

企画・進行中

- ・ フリーペーパー制作



- ・ 1～2年生を対象に新学期に配布
- ・ 鹿児島企業の存在について知ってもらう

- ・ 動画制作



- ・ 学生の情報収集スタイルの変化
- ・ より多くの学生へのアプローチ

17

平成30年度鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム 「地方創生活動部門」成果報告書



- (3) プログラム名：八重山高原星物語2018
グループ名：八重山高原星物語 学生運営委員会

【活動目的】

八重山高原の鹿児島大学農学部附属入来牧場には、国立天文台と鹿児島大学理学部が共同で研究を行っている国立天文台 VERA 入来観測局という宇宙観測施設がある。ここには VERA20m 電波望遠鏡があり、「天の川銀河の地図づくり」という世界的な研究を行っている。

また、そのすぐ近くには鹿児島大学の 1m 光赤外線望遠鏡もあり、VERA と共に「天の川銀河の地図づくり」を中心に様々な研究を行っている。この入来牧場のある鹿児島県薩摩川内市には、日本棚田百選に選ばれた「内之尾の棚田」があり、他にも「岩下の棚田」や「岩下の滝」など非常に美しい自然環境が豊富にある地域となっている。

八重山高原星物語2018とは、以上のような宇宙観測施設や美しい自然に囲まれた場所で行われ、国立天文台や鹿児島大学理学部・農学部、並びに NPO 法人や地元の関係者が協力し、教育と地域の連携によって行われる特色あるイベントである。内容は施設公開を主として、学生によるミニ科学実験やミニ講演会なども行われる。

【活動内容】

当日のブース出展やボランティアの依頼を2018年2月から開始し、2018年8月11日のイベント当日に向けて、薩摩川内市入来支所で行なわれる八重山高原星物語2018実行委員会に参加した。

また、会議資料を作成し、学生運営委員会・ボランティア講習会を開催した。この他に広報活動としてTwitterやホームページによる情報の発信、ラジオ・テレビ・ポスターなどによる宣伝を行なった。

イベント当日は会場案内、Twitterによる情報更新、アンケートの回収等を行なった。

【効果・成果】

来場者は約3800人でありイベントを成功させることができた。「施設見学が楽しかった」「学生が説明する方が子ども達も楽しそうだった」といったアンケート結果から、施設の一般公開や実験ブースを通じて宇宙観測施設の価値やそこでの研究を理解してもらい、科学について興味関心をもってもらえたと思われる。

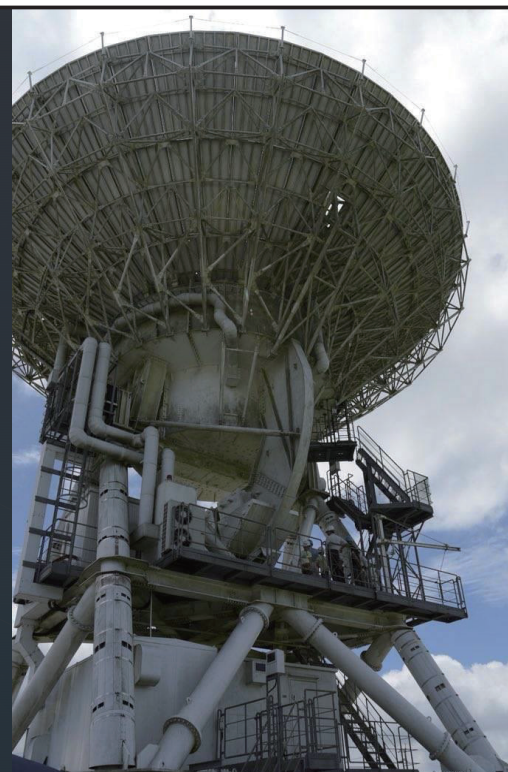
また、薩摩川内市外の来場者も多く、地域の方々と協力してイベントを盛り上げることができ、地域の活性化につながったと考えられる。

さらに、このイベントを通じて普段の学校生活ではできないイベントの運営・準備といった難しい体験をできたことから学生の成長にも繋がったと思われる。

【今後の計画、展望等】

八重山高原星物語2019が2019年8月に予定されている。アンケート結果からネットを用いた広報活動が有効的だと考えられるので、その準備を早くから行ない、情報の更新頻度をあげれば多くの人にイベントを知ってもらえると考えられる。

八重山高原星物語 2018



八重山高原星物語2018

- 日時 平成30年8月11日(土)
- 開催時間 12:00~21:00
- 開催会場 鹿児島県薩摩川内市入来町八重山高原
(国立天文台VERA入来局)

→今年は農学部のエリアが縮小

活動報告

2月

- 引き継ぎ
- ボランティア依頼開始
- ブース出展依頼開始
 - 純心女子短期大学
- JAXA
- 鹿児島工学院専門学校
- せんだい宇宙館
- 天文協会
- 鹿児島大学ロボット研究会
- 鹿児島大学奇術同好会 など



ボランティア講習会

活動報告

6月

- 第1回学生運営委員会(6/1)
- Twitter、HPでの広報開始
- 第2回学生運営委員会(6/14)
- 第1回ボランティア講習会(6/23)
- 第3回学生運営委員会(6/28)

7月

- 第4回学生運営委員会(7/12)
- 第2回ボランティア講習会(7/21)
- 第5回学生運営委員会(7/26)
- ポスター・チラシ・アンケート完成
- ラジオ出演
 - FMぎんが(7/28)
 - MBCラジオ(7/30)

活動報告

8月

- 八重山高原星物語2018当日(8/11)
- アンテナツアー
- 学生・地元団体によるブース(19団体)
- 特産品出展(10店舗)
- 屋外ステージ
- 天文協会による星空観望会
- 来場者:約3800人



宇宙服の展示・試着

イベントの狙いに対する成果

イベントの狙い

1. 宇宙観測施設の価値やそこでの研究を理解してもらう
2. 科学に対する興味関心を深めてもらう
3. 地域の活性化

イベントの狙いに対する成果

1. 宇宙観測施設の価値やそこでの研究を理解してもらう

～ アンケートの回答 ～

- 施設見学が楽しかった
- 望遠鏡のパンフレットがあると良かった
→VERAのパンフレットをアンケートと一緒に配布



施設の公開が有効的であった
パンフレットの配布を初めから行えると良かった

イベントの狙いに対する成果

2. 科学に対する興味関心を深めてもらう

～アンケートの回答～

- 学生が説明する方が子どももうれしそうだった
- スライム、模型作りが楽しかった
- 体験コーナーがすぐ入れて良かった



実験ブースなどを通じ、科学の魅力を知ってもらえた

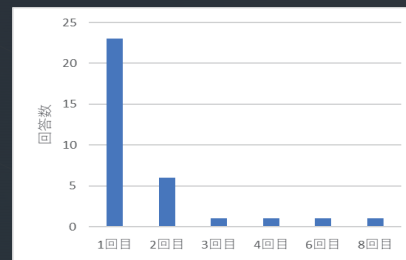
イベントの狙いに対する成果

3. 地域の活性化

～アンケートの回答～

Q.本日はどちらからのご参加ですか？

鹿児島市	15
薩摩川内市	13
日置市	2
出水市	1
桜島	1
宮崎県綾町	1
合計	33



薩摩川内市以外の人にも知ってもらえた

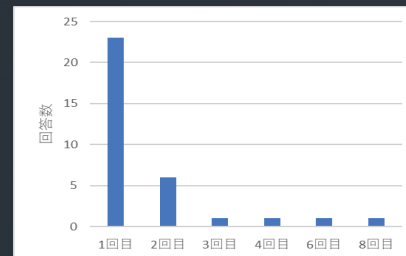
イベントの狙いに対する成果

3. 地域の活性化

～アンケートの回答～

Q.当イベントに参加されるのは何回目ですか？

1回目	23
2回目	6
3回目	1
4回目	1
6回目	1
8回目	1
合計	33



初めて参加する来場者が最多であり、多くの人に知ってもらえた

イベントの狙いに対する成果

3. 地域の活性化

- 薩摩川内市入来支所の方との協力
- 特産品出店(10団体による出店)
- 薩摩川内市の方々によるブース出展
(竹細工玩具作り、入来小ジュニア歴史ガイドなど)



地元の方々との協力によりイベントが成功した

学生の成長

学生運営委員会

- 学生運営委員会の開催
- 外部の方との連絡
- 会議資料の作成
- ホームページ・Twitterの運営
- 予算管理



イベントの運営に携わる経験を通して成長できた

実験ブースの学生

- 公開講座生とボランティア生の協力
- 実験を子ども達に説明



原理や仕組みについての伝え方を工夫し、深く理解できた

▸ 今後の展望

「八重山高原星物語2019」

- 開催候補日 8/4,8/10,8/11
- 開催時間 12:00～21:00
- 開催会場 鹿児島県薩摩川内市入来町八重山高原
(国立天文台VERA入来局)

※理学部物理科学科3年生による学生運営委員会を設置しない予定

▸ 今後の展望

～アンケートの回答～

Q.このイベントをどこで知りましたか？

鹿大理科教室	9
チラシ	6
学校	5
新聞	4
インターネット	4
ポスター	2
朝のニュース	2
Twitter	1
川内イベント	1
鹿大生の家族から	1
ホームページ	1
ジュニア歴史ガイド	1
合計	37

ネットを用いた広報活動(インターネット・Twitter・ホームページ)が新聞やニュースと同程度の影響力があった



ネットを用いた広報活動の準備を早く、頻度を上げて行えば、より多くの来場者が見込める



ご清聴ありがとうございました

平成30年度鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム 「地方創生活動部門」成果報告書



- (4) プログラム名：未来を繋げ！鹿児島大学医療系学生発「こども無料塾」
グループ名：MIRAI WO TSUNAGU

【活動目的】

鹿児島は、過去に「子育て世代の貧困率が全国でワースト3位」という結果が出たこともあり、「子どもの貧困」を改善するための施策の考案と実施の必要性が非常に重視されている。今プロジェクトでは、鹿児島大学の医療系学生を中心に鹿児島県内に住む経済的・環境的に恵まれない子どもたちへ向けた「こどもむりょう塾」を開催することで、塾などで学習を受ける機会を得られない子どもたちに無償で学習の機会を提供することや、自宅でも学習を継続したいと思えるような自主性を育むツールを作成することを目的とした。

【活動内容】

◎こどもむりょう塾の開催

毎月1回、星ヶ峯地区の福祉館で行なわれている「ほしがみね☆みんなの食堂」と連携し、食堂に参加する子どもたちや食堂の代表者から紹介を受けた子どもたちを対象に、無料で学習支援を含む「こどもむりょう塾」を開催した。

◎ワークブックの作成、設置

子どもたちに自分自身で考える体験、多様な考えに触れられる体験、自分を大切にする(健康感を育む)体験を得られる機会を提供するために、こどもが自由に手に取り個人で利用することを想定したワークブックを作成した。

【効果・成果】

◎安定したこども食堂の開催を継続している方や地域の方々と連携することで、こどもむりょう塾を定期的に安定して開催させることができた。こどもたちとつながりを得られる場を継続的なものにする事ができた。

◎作成したワークブックを鹿児島市社会福祉協議会にあるボランティアセンターに設置し、こどもたちが自由に手に取り持ち帰って利用できるようにした。

【今後の計画、展望等】

◎ワークブックの配布、設置

作成したワークブックを鹿児島県内各地のこどもが関わる施設・こども食堂に提供(設置)し、より多くのこども達にワークブックを配布できるようにする。

◎こどもむりょう塾の定期開催継続

◎ワークブックを利用したこどもむりょう塾開催のシステム構築

・出張こどもむりょう塾開催のシステム構築

・既存のこども食堂、こどもむりょう塾でのワークブックを利用したこどもむりょう塾の開催

未来を繋げ！鹿児島大学医療系学生発

『子どもむりょう塾』

MIRAI WO TSUNAGU

連携協働：社会福祉法人鹿児島市社会福祉協議会ボランティアセンター

突然ですが、

鹿児島の子どもの貧困率を知っていますか？

子どもの貧困

食べ物や家がないなど、人間としての最低限の生存条件が欠けている状態



**絶対的
貧困**

国の文化水準、生活水準に比べて、適正な水準での生活を営むことが困難な状態



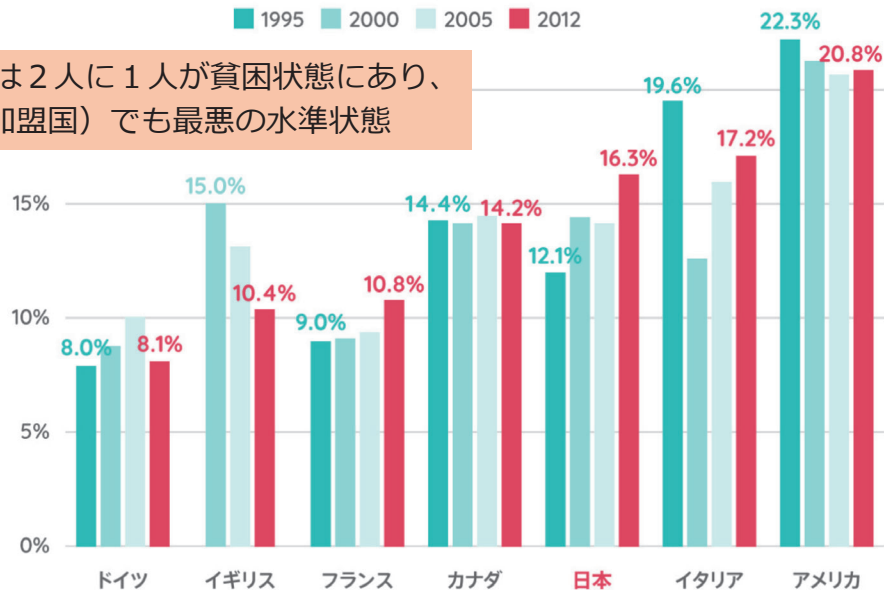
**相対的
貧困**

世界主要国のこどもの貧困率

25%

■ 1995 ■ 2000 ■ 2005 ■ 2012

一人親世帯では2人に1人が貧困状態にあり、世界（OECD加盟国）でも最悪の水準状態



参照：OECD Income Distribution Database「国民生活基礎調査」（厚生労働省）、日本子ども支援協会

社会学者ブルデューによって分類された 人間の持つ3つの資本

社会関係資本(Social capital)

人々が持つ信頼関係や人間関係（社会的ネットワーク）

文化資本

蓄積することで所有者に権力や社会的地位を与える
文化的教養に類するもの

経済資本

ブルデューは社会的地位の再生産の議論において、
これらの**資本を多く持つ人ほど、進学や就職において有利であり、
高い社会的地位につくことができる**とした。(Wikipediaより引用)

これらの積み上げにより、自尊心や自己肯定感から夢を持ち、
将来への希望を目標とし達成を目指すことができる

自尊心・自己肯定感
(夢や希望)

社会関係資本
(人脈)

文化資本

経済的資本

積み上げ

社会学者ブルデューによって分類された 人間の持つ3つの資本

貧困状態にあるこどもの現状

何らかの理由（保護者が長時間労働で家にいない、保護者が体調が良くない）で家庭内で家事・育児の主力を担っているこどもは、周りとの関わりを持ったり、新たな情報に触れる機会が少ない。
家族以外のコミュニティとの関わりが少ない。

貧困家庭のこども達は
圧倒的弱者

自尊心・自己肯定感
(夢や希望)

社会関係資本
(人脈)

文化資本

経済的資本

こどもの成長ための理想

地域・世代を越えた他者との繋がりの価値の見直しとプロモーション活動。
地域でこどもを育てる。

現在の日本の「与えられる教育」から「自ら考え理解し答えを導き出す教育」への変革

家庭の経済状況がこどもの教育や成長に影響を与えないような
社会保障・社会福祉の充実

子供の貧困率(%)

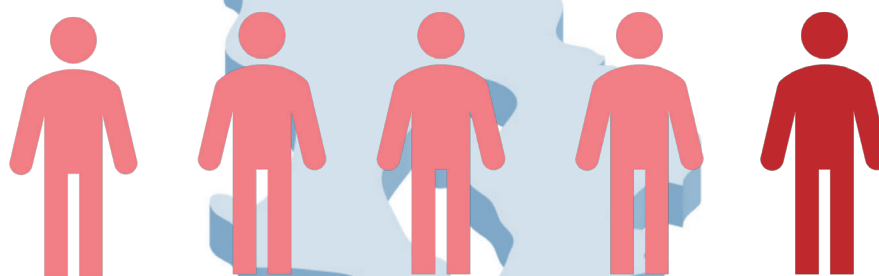
1	沖縄	37.5	17	広島	14.9	33	愛知	10.9
2	大阪	21.8	18	鳥取	14.5	34	静岡	10.8
3	鹿児島	20.6	19	岩手	13.9	35	千葉	10.4
4	福岡	19.9	20	大分	13.8	35	栃木	10.4
5	北海道	19.7	21	山口	13.5	37	東京	10.3
6	宮崎	19.5	22	徳島	12.4	38	群馬	10.3
7	高知	18.9	23	埼玉	12.2	39	石川	10.0
8	和歌山	17.5	24	新潟	12.0	40	秋田	9.9
8	青森	17.5	24	山形	12.0	41	三重	9.5
10	熊本	17.2	26	奈良	11.7	42	岐阜	9.4
10	京都	17.2	27	山梨	11.7	43	島根	9.2
12	愛媛	16.9	28	香川	11.6	44	滋賀	8.6
13	長崎	16.5	28	福島	11.6	44	茨城	8.6
14	岡山	15.7	30	佐賀	11.3	46	富山	6.0
15	兵庫	15.4	31	神奈川	11.2	47	福井	5.5
16	宮城	15.3	32	長野	11.1			

2012年 山形大学戸室准教授研究

鹿児島県

全国で **3 番目** に
子どもの貧困率が高い
(全国平均13.8%)

鹿児島県の子どもの貧困



5 人に 1 人

子どもの貧困が与える**影響**

- ・自身の**社会的排除**を引き起こす**リスクが高い**
- ・親も**相対的貧困状況**にある
 - ➔**貧困が親のストレスを高め、子どもと過ごす時間を少なくし孤立させることにより、厳しい子育て環境に置かれてしまう。**

阿部彩【「豊かさ」と「貧しさ」：相対的貧困と子ども】

子どもの貧困**対策**

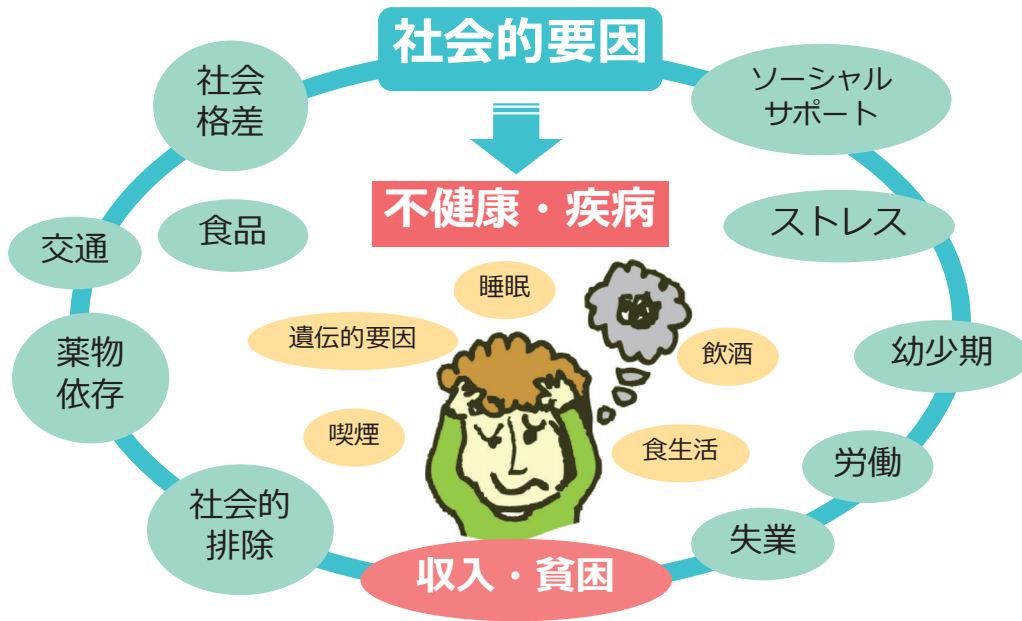


こども食堂

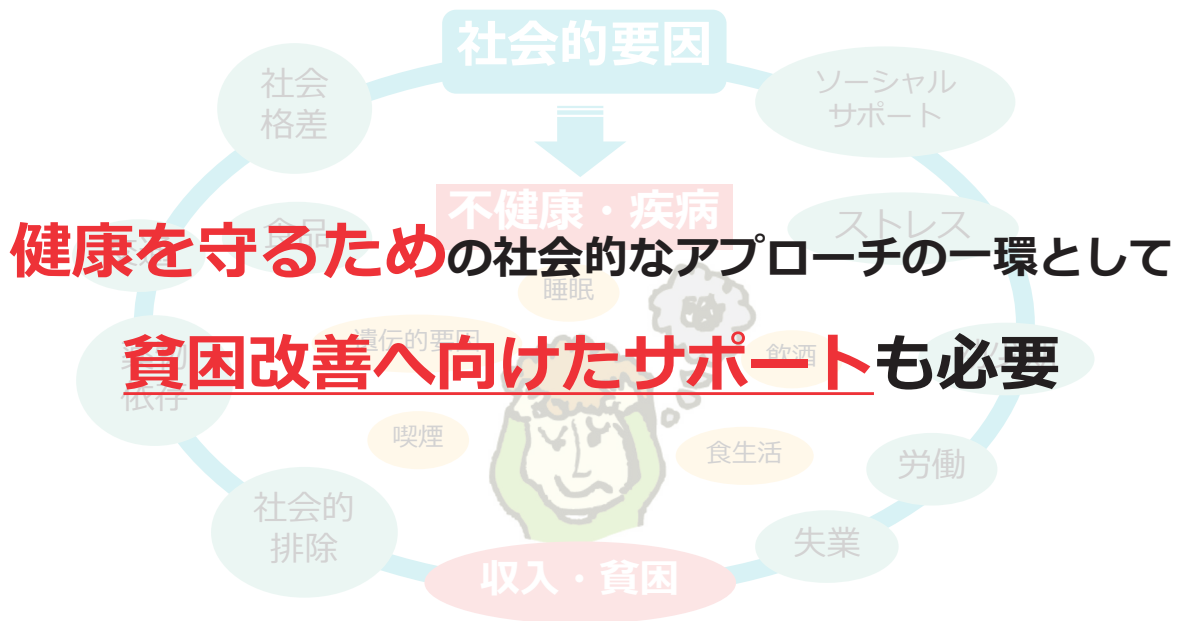


無料塾

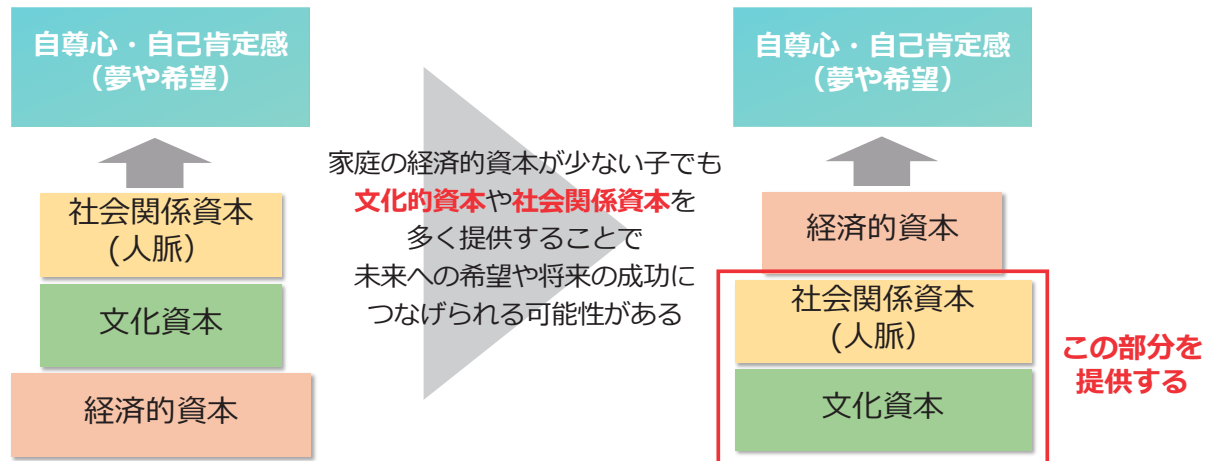
健康の社会的決定要因 (SDH:Social Determinants of Health)



健康の社会的決定要因 (SDH:Social Determinants of Health)



社会学者ブルデューによって分類された 人間の持つ3つの資本



成果報告

本プロジェクトの3つの柱

- ① こどもむりよう塾の開催
- ② ワークブックの作成
- ③ ワークブックの配布・設置・利用

本プロジェクトの3つの柱

- ① **こどもむりよう塾の開催**
- ② ワークブックの作成
- ③ ワークブックの配布・設置・利用

こどもむりょう塾の開催について

課題

- ①提供されるこども側の準備
 - ・対象となる子どもへの周知、開催場所の確保
- ②提供する学生側の準備
 - ・協力学生の確保、使用するコンテンツの作成

対策

- ①既存の「ほしがみね☆みんなの食堂」と連携し、開催
- ②学内での情報周知
 - ・鹿児島大学桜ヶ丘キャンパス内へのポスター掲示、SNSの利用
 - ・以前から存在していた保健学科内のボランティアサークルでの告知
 - ・学習系サークルへの告知
 → **新たにメンバーが2人（医学科1人、保健学科1人）増えた**



プロジェクト周知用ポスター

こどもむりょう塾の開催について

プロジェクト周知用ポスター

- ・桜ヶ丘キャンパス内に掲示
保健学科棟、共通教育棟、基礎医学研究棟
図書館 など
- ・QRコードから、活動参加希望申し込み用の
Googleフォームへ移動。
後日、こちらから連絡をする。

その他、
既存のサークル内での広報活動も行った。



第1回 こどもむりよう塾（2018年8月26日）



【実施内容】

- ・ 夏休みの宿題を一緒に行う
- ・ 勉強方法のアドバイス
- ・ 自由研究の進め方、まとめ方紹介、参考実験
- ・ こども食堂の一環の食事



第1回 こどもむりよう塾（2018年8月26日）



【実施内容】

自由研究の進め方、まとめ方の紹介と参考実験

「つかめる水を作ろう（アルギン酸ナトリウムと乳酸カルシウムの実験）」



第1回こどもむりょう塾 参加者の様子と次回以降への課題

こどもむりょう塾開催後にメンバー内で話し合いを実施。参加者の様子や私たち学生自身が感じたことを共有し、今後のこどもとの接し方などの次回開催へ向けた課題や注意事項等を話し合った。

◎参加者の様子

- ・個人学習を行う時間では、一人一人が持ち寄った教材をもとに積極的に学習を行っていた。
- ・実験を始める際に、実験の手順を自分のノートに書き写すよう指示をすると、声に出しながらノートに書き写していた。わからないことに対して自然と質問が挙がる様子から、**子どもたちの探究心の大きさを感じられた。**

◎次回以降への課題

- ・参加したこどもの年齢が様々で、対象年齢の細分を考慮せずに準備した学習ツールでは皆の理解度や達成感、満足感を揃えることができない、と痛感した。対象となる年齢などに考慮しながら、開催者側の補助をくわえながら、理解度や達成感、満足度を得られるよう工夫したい。
- ・普段会えない大学生と出会ったことで、勉強に集中するよりも大学生と遊ぶことに熱中してしまう小学生が数人おり、**勉強したい子どもたちの集中を遮ってしまう様子が見受けられた。**

第2回 こどもむりょう塾（2018年10月28日）



【実施内容】

- ・宿題を一緒に行う
- ・ハロウィンイベント
（ハロウィンクイズ、お面作り、ハロウィン体験）

第2回 こどもむりょう塾（2018年10月28日）



【実施内容】

- ・ハロウィンクイズ（歴史、ならわし、世界の文化など）
- ・かぼちゃのお面作り
- ・ハロウィン体験「『トリックオアトリート』を言ってお菓子をもらおう」

第2回こどもむりょう塾 参加者の様子と次回以降への課題

こどもむりょう塾開催後にメンバー内で話し合いを実施。参加者の様子や私たち学生自身が感じたことを共有し、今後のこどもとの接し方などの次回開催へ向けた課題や注意事項等を話し合った。

◎参加者の様子

- ・今回は勉強時間は1時間だけで、それ以降はハロウィンの企画を行なった。
→今回は1時間しっかり集中してくれた印象。集中力が切れかけてきても声かけをしたら集中してくれた。人の勉強を邪魔するような行動は見られなかった。今回は前回に比べて集中力が続く子が多かったのも要因か。
- ・決まりごととして、人の邪魔をしない、勉強時間は勉強をする、ということをしっかり守ることができた。

◎次回以降への課題

- ・今回は参加学生の人数が前回よりも少ないことで、参加学生一人ひとりの負担が大きかったと感じられる。しかし、参加学生が多くても子どもたちが集中できない、あるいは参加者に対して参加学生が多いことで一人当たりの労力が少なくなりやりがいを感じられない、などの問題点もある。
参加学生と参加者の人数の適切なバランスをどのようにして保つべきかを考え、調整していかなければならない。

第3回 こどもむりよう塾（2018年12月16日）



【実施内容】

- ・宿題を一緒に行う
- ・勉強方法のアドバイス
- ・地域の人と一緒に餅まるめ体験
- ・からだにまつわるクイズ

第3回 こどもむりよう塾（2018年12月16日）



【からだにまつわるクイズ】

- ・しゃっくりはなぜ出るの？
- ・鼻血が出た時にはどうすればいいの？
- ・髪の毛はなぜ切っても伸びるの？
- ・まつげが目に入ったらどうするのがいいの？
- ・赤ちゃんはいつから目が見えるのでしょうか？
- ・人がくしゃみや咳をしたときのつばやばいきはどのくらい飛ぶのでしょうか？
- ・動物にはあるしっぽ、なぜ人にはしっぽがないの？

第3回こどもむりょう塾 参加者の様子と次回以降への課題

こどもむりょう塾開催後にメンバー内で話し合いを実施。参加者の様子や私たち学生自身が感じたことを共有し、今後のこどもとの接し方などの次回開催へ向けた課題や注意事項等を話し合った。

◎参加者の様子

- ・小学生から中学生、高校生と様々な年代のこどもが参加したが、各自持ち寄った学習ツールを用いた個人学習の時間を存分に学習に充てられている様子が伺えた。
- ・多数参加しているこどもと初めて参加したこどもとで、参加学生への馴れ親しみの程度が違い、なかなか参加学生へ自分から話しかけられないこどもがいた。

◎次回以降への課題

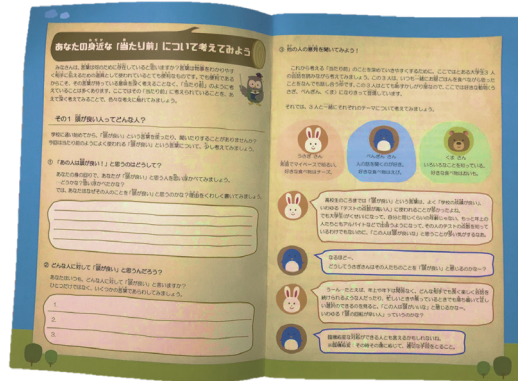
- ・特定のこどもに付きっきりにならない、あるいは話しかけられ続けられないよう、参加学生は座る位置を配慮する。こどもだけにすると隣の子に話しかけ続けて勉強の邪魔をしてしまうこどももいるので、教えながら場所を移動できるようにする。
- ・学習時間中は、こどもからの質問の有無で学生との関わる量に個人差がでる。
→学習時間以外の時間に、学習時間中に話せなかったこどもと積極的に会話する。会話量が充分でなくても、皆に平等に接せられるように心がける。

本プロジェクトの3つの柱

- ① こどもむりょう塾の開催
- ② **ワークブックの作成**
- ③ ワークブックの配布・設置・利用

ワークブック の作成

ワークブック = じぶんNOTE



鹿児島市 朝日印刷に印刷を依頼
 今回は、314円/冊 にて500冊作製（B5カラー24ページ、表紙クラフト紙、その他上質紙）

じぶんNOTE コンテンツ

◎はじめに

20年くらい生きたい私たちから、この本を手にとってくれたあなたへ

◎あなたの身近な当たり前について考えてみよう

- ・頭が良い人ってどんな人？
- ・なぜ男女の二種類に分かれたのだろう？

◎自分のまわりのふしぎを見つけてみよう！

- ・頭の中で旅をしよう！
- ・ニュースや新聞をよむ

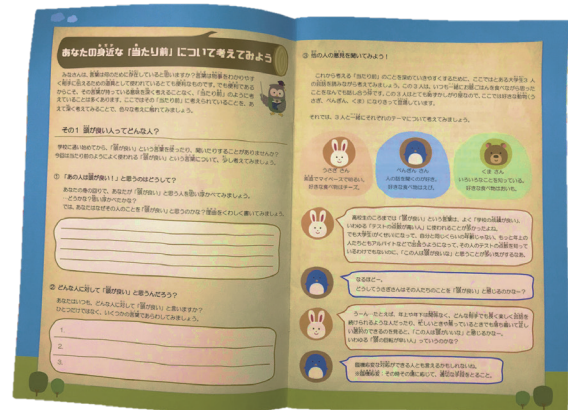
◎「いま」のあなたから「未来」のあなたへ

- ・あなたの夢や目標を書いてみよう！
- ・読んだ本の感想を記録していこう！

◎注目しよう、身の回りの食べ物のこと！

◎あとがき

「未来」に向かって生きるあなたへ



※実際に「じぶんNOTE」を手にとってご覧ください。

じぶんNOTE作成で大切にしたい3つの軸

- ① 自分自身で考える体験
- ② 多様な考えに触れられる体験
- ③ 自分を大切にすること（健康感を育む）体験

※実際に「じぶんNOTE」を手にとってご覧ください。

3つの軸を形にした方法

- ① 自分自身で考える体験
- ② 多様な考えに触れられる体験 について

▶ ●本「**子どもの哲学**」を参考にした

- ① 自分自身で考える体験 → **アクティブラーニング**の手法を用いる
- ② 多様な考えに触れられる体験 → **ディスカッション形式**を用いる

※実際に「じぶんNOTE」を手にとってご覧ください。

3つの軸を形にした方法

③自分を大切に（健康観を育む）体験について

- ▶ ・自分自身の興味のあることをまとめることで認識し、興味をさらに広げられるようなページを作成
- ・栄養教育：自分の健康にかかわる栄養に興味を持てるような導入資料を作成

※実際に「じぶんNOTE」を手にとってご覧ください。

じぶんNOTEの課題

◎じぶんNOTEの課題

- ・多様な意見に触れられる反面、その他の意見が挙げにくくなった。
- ・内容を深く掘り下げられる反面、1つのテーマあたりのボリュームが大きくなり、採用できるテーマが少なくなってしまった。

- ▶ 次年度以降、じぶんNOTEのバージョンアップを行う際に
 - ・実際にじぶんNOTEを利用した子どもの感想
 - ・多方面の方々からの意見、アドバイスを参考にし、検討したい

※実際に「じぶんNOTE」を手にとってご覧ください。

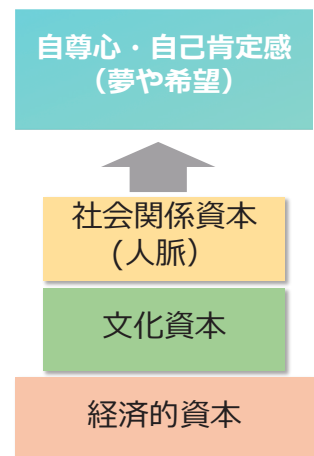
実際に活動してみて感じたこと

◎子どもにとっての「社会関係資本」の重要性

子どもたちと同じ時間を共有することで世代を超えた「繋がり（社会関係資本）」を構築することができると強く実感できた。同時に、経済的資本が与える社会関係資本、文化資本への影響も実感した。「繋がり（社会関係資本）」の構築が教育機会の不十分な環境へポジティブな影響を与えられると感じた。

◎世代を超えた、地域の力の重要性

子どもむりょう塾は学生のみではなく、**地域の人たちと協力することで実現**することができた。同じ気持ちを持つ人と繋がり、その繋がりが派生して大きくなることや、その思いを持つ人を増やすことが、広い範囲かつ抜本的な子どもの貧困対策に繋がると感じた。

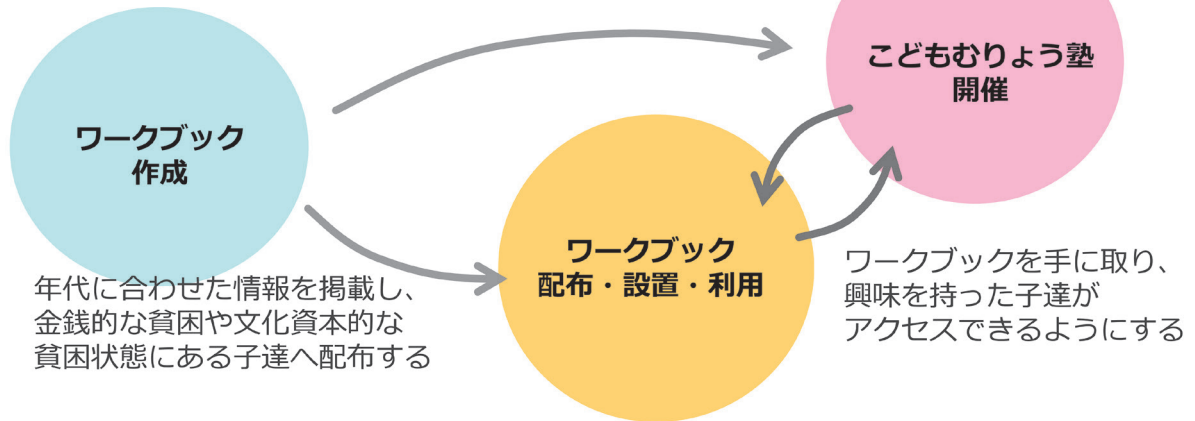


本プロジェクトの3つの柱

- ① 子どもむりょう塾の開催
- ② ワークブックの作成
- ③ **ワークブックの配布・設置・利用**

ワークブックを利用した「こどもむりよう塾開催」の基盤づくり

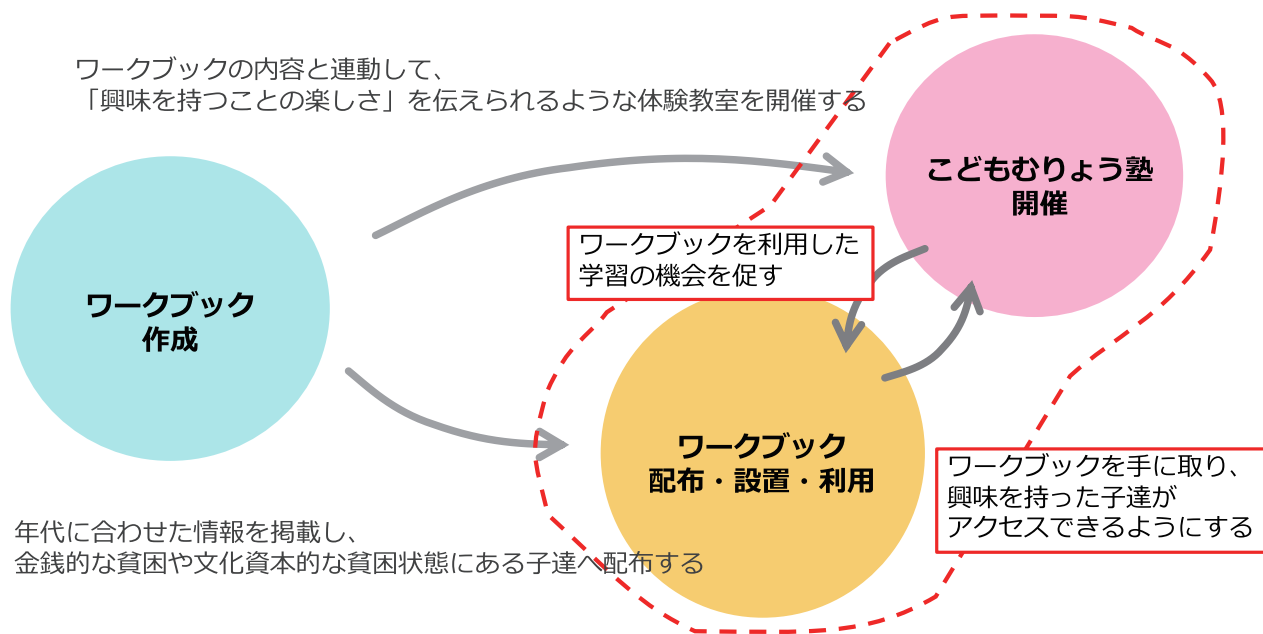
ワークブックの内容と連動して、「興味を持つことの楽しさ」を伝えられるような体験教室を開催する



現在（2019.3/8）は、社会福祉法人鹿児島市社会福祉協議会ボランティアセンターに設置済み。今後、鹿児島市内のこども食堂を中心に配布・設置をお願いしていく。

本プロジェクトの今後の展望

ワークブックを利用した「こどもむりよう塾開催」の基盤づくり



無料の学習支援の場の例

始良市 子どもの学習支援事業「マナビバ」

学校でも塾でも学童保育でもない、新しい居場所。
生活困窮者世帯を主とする学習に課題を抱える子どもたちに対して、基本的な生活習慣を習得し、経済的な理由などにより学習や進学への意欲が低下したり、十分な教育が受けられなかったりしないよう、学習の場と安心して過ごせる居場所を提供します。
参加は無料です。

学習塾のような大幅な学力向上を目的とはせず、自ら学習に取り組める環境づくりや基礎学力を身につけるための指導を行なっています。また、学童保育のように家庭の代わりに子どもを預かるのではなく、子どもが自らの意思で参加し、目標をもって過ごす場となることを目指しています。

主体：始良市社会福祉協議会

実施例：毎週土曜日10時～15時（祝祭日等を除く）

参加対象：始良市内在住の小中学生、要申込み（登録）、予約は不要

参加／登録者数：80名
（平成30年3月現在）

社会福祉協議会HP：<https://www.shakyo.or.jp>

「ほしがみね☆みんなの食堂」 学習会の開催例

参加人数

5~10名 (小学生・中学生・高校生)

開催場所

地域の福祉館、公民館など

広報活動

- ・みんなの食堂内での開催告知
- ・SNS(Instagram)への投稿

その他

みんなの食堂開催の翌日に開催することが多い
日曜日 10時~14時 (食事あり)

→本プロジェクトも、現行では
「ほしがみね☆みんなの食堂」の学習会の場で
学習支援などのむりょう塾開催を行う



無料で学習支援を行う場の展開

→ こどもの学習支援の一環として、
タブレット・PCやネット環境の整備と提供により、こどもが自由に情報を
得て活用できるプラットフォームの確立への期待が高まる

最後に

子供の貧困率(%)

1	沖縄	37.5	17	広島	14.9	33	愛知	10.9
2	大阪	21.8	18	鳥取	14.5	34	静岡	10.8
3	鹿児島	20.6	19	岩手	13.9	35	千葉	10.4
4	福岡	19.9	20	大分	13.8	35	栃木	10.4
5	北海道	19.7	21	山口	13.5	37	東京	10.3
6	宮崎	19.5	22	徳島	12.4	38	群馬	10.3
7	高知	18.9	23	埼玉	12.2	39	石川	10.0
8	和歌山	17.5	24	新潟	12.0	40	秋田	9.9
8	青森	17.5	24	山形	12.0	41	三重	9.5
10	熊本	17.2	26	奈良	11.7	42	岐阜	9.4
10	京都	17.2	27	山梨	11.7	43	島根	9.2
12	愛媛	16.9	28	香川	11.6	44	滋賀	8.6
13	長崎	16.5	28	福島	11.6	44	茨城	8.6
14	岡山	15.7	30	佐賀	11.3	46	富山	6.0
15	兵庫	15.4	31	神奈川	11.2	47	福井	5.5
16	宮城	15.3	32	長野	11.1			

2012年 山形大学戸室准教授研究

沖縄県

全国で**1番**
子どもの貧困率が高い



3人に**1人**

なぜ沖縄はこどもの貧困率が全都道府県一番高いのか？

- ・ **県民所得**が全都道府県で一番低い
- ・ 完全失業率が全都道府県で一番高い
- ・ 非正規雇用者数が全都道府県で一番高い
- ・ 出生率は全都道府県で一番高いが、離婚率も全国で一番高い
- ・ 待機児童数が全都道府県で一番多い
- ・ 第3次産業が盛んで、
中でも気候や季節によって収入が変動する観光業を主としている
- ・ 鉄道が無く、移動はバスか自家用車
生活保護を受けたくても生活のために自家用車を手放すことが
できず、受給がはばかれる

など…

※平成30年発表、2016年の結果

健康格差

雇用や所得、家庭環境といった
社会経済状況の格差が健康を左右する状態

人の健康を守る者として、
人の生活背景から社会まで見通すことがとても重要

なぜ沖縄はこどもの貧困率が全都道府県一番高いのか？

- ・ **県民所得**が全都道府県で一番低い
- ・ 完全失業率が全都道府県で一番高い
- ・ 非正規雇用者数が全都道府県で一番高い
- ・ 出生率は全都道府県で一番低い

恵まれない環境による負の連鎖は止まらない。
そしてこれらには、個人の努力の責任だけではなく、
社会環境の整備の必要が迫られる。

生活保護を受けたくても生活のために自家用車を手放すことが
できず、受給がはばかれる

など…

※平成30年発表、2016年の結果

なぜ沖縄はこどもの貧困率が全都道府県一番高いのか？

- ・ **県民所得**が全都道府県で一番低い
- ・ 完全失業率が全都道府県で一番高い
- ・ 非正規雇用者数が全都道府県で一番高い
- ・ 出生率は全都道府県で一番低い
- ・ 待機児童数が全都道府県で一番多い

つまり、これらは
「沖縄だけの問題」ではありません。
日本全国どこにでも起こりうる問題。
鹿児島でも、子どもの貧困は起きている。

生活保護を受けたくても生活のために自家用車を手放すことが
できず、受給がはばかれる

など…

※平成30年発表、2016年の結果

なぜ沖縄はこどもの貧困率が全都道府県一番高いのか？

- ・ 県民所得が全都道府県で一番低い
- ・ 完全失業率が全都道府県で一番高い
- ・ 非正規雇用者数が全都道府県で一番高い
- ・ 出生率は全都道府県で一番高いが、離婚率も全国で一番高い

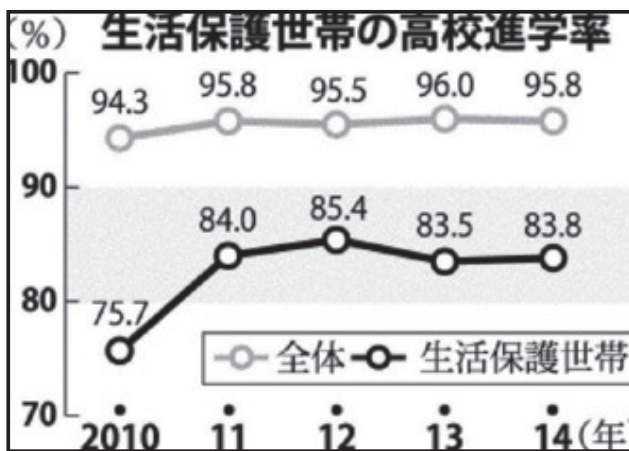
**健康・いのちを守るために、医療者は
医療を介して社会を考える必要が有ります。**

- ・ 待機児童数が全都道府県で一番多い
- ・ 第3次産業が盛んで、
- ・ 鉄道が無く、移動はバスか自家用車
- 生活保護を受けたくても生活のために自家用車を手放すことが
できず、受給がはばかれる

など…

※平成30年発表、2016年の結果

半数以上の市町村に計43の無料・低額の学習支援施設 「沖縄子どもの未来県民会議」の発足

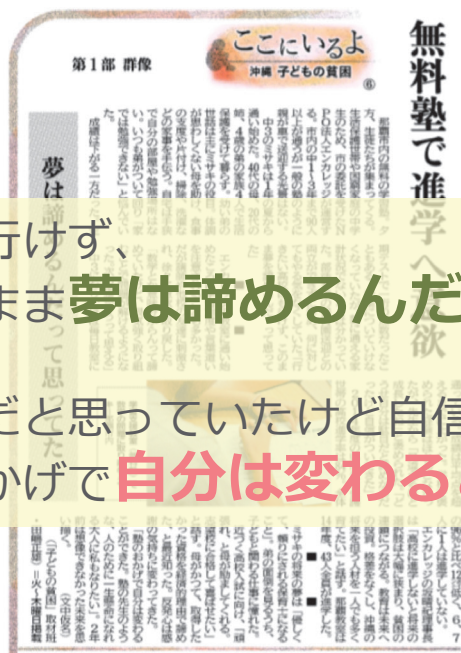


2015.7.29 沖縄タイムス

沖縄県生活保護世帯進学率の上昇 無料塾スタート後に上昇

2016年には、
**生活保護世帯の高校進学率は
6年間で81%から90.5%に伸びた。**
特に男子の進学率は65%から91.3%と
大幅な改善を示している。

<https://news.yahoo.co.jp/byline/yuasamakoto/20160910-00061770/>



「行きたい高校にも行けず、
このまま**夢は諦めるんだって思ってた。**」

「どうせ自分はダメだと思っていたけど自信がついてきた。
塾のおかげで**自分が変わることが出来た。**」

これらの活動継続への期待

▶ 鹿児島県のこどもの貧困率の改善

こどもの未来を見据え、貧困という環境から脱するための勇気を与えられるための働きかけをする。学習支援や自分で考える学習の機会を与えながら、文化資本や社会関係資本の獲得の機会を与える

▶ 鹿児島大学医療系学生のボランティアの機会の増加、社会や貧困へ興味を持つ機会の増加

目の前の人の生活背景や育つ環境を考えて接する経験を学生のうちに重ねることで、将来医療者になる上で必要な「患者さんや地域住民の生活背景や社会背景」を考える素養を養い、鹿児島の将来の医療を担う医療系学生も共に成長できる場を作る



平成30年度 進取の精神 チャレンジプログラム募集

「進取の精神チャレンジプログラム」とは、鹿児島大学学生憲章の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施するプログラムを鹿児島大学が支援するものです。

皆さんが現在取り組んでいる活動や興味・関心のあることを切り口に、プログラムを企画してみませんか？

・募集企画 (支援予定額 1件につき上限20万円)

一般部門	地方創生活動部門
<p>募集テーマ：チャレンジ！鹿児島大学</p> <p>【大学の活性化】 (例) 学内の環境改善(美化)活動 学内資源の利用促進活動 大学情報の発信 障がい学生の支援 大学グッズの開発 etc</p> <p>【国際交流】 (例) 留学生との共同研究活動 etc</p>	<p>募集テーマ：まち・ひと・しごと創生</p> <p>【鹿児島県内自治体の地域課題】 (例) 魅力ある観光資源の発掘とPR戦略の提言 商店街の賑わい創出への支援 etc</p> <p>【鹿児島県内企業等の課題】 (例) 製品の販売戦略の提言 etc</p> <p>Let's challenge!</p>

・募集期間 5月1日(火)～ 5月25日(金)

・説明会 5月7日(月) 17:00～ 学習交流プラザ2階 学習交流ホール

応募資格：本学の学部学生及び大学院生で個人又はグループ

また、学生が主体であれば教職員と連携して応募することも可能

応募方法：応募書類(企画書・必要経費内訳書)を学生生活課学生企画係へ提出

審査方法：書類審査及びプレゼンテーション

詳しくは、募集要項をご覧ください。

大学HP「鹿児島大学－在学生の皆さま－インフォメーション」に掲載

問い合わせ先 学生生活課学生企画係(共通教育棟1号館1階) TEL285-7320



平成30年度「鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム」募集要項

1. 進取の精神チャレンジプログラムとは

本プログラムは、鹿児島大学学生憲章（平成22年11月15日制定）の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施する様々な活動の支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践していくことによって鹿児島大学（以下「本学」という。）における進取の精神の継承・発展を目的としています。

地域貢献を標榜する大学として、学生の皆さんにも鹿児島県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を展開していただきたいと考え、平成28年度からは本プログラムに「地方創生活動部門」を追加しました。

まずは、皆さんが現在取り組んでいる活動や興味・関心のあることを切り口に企画し、本プログラムに応募してみませんか。意欲とアイデアさえあればOKです。採択されたプログラムには予算の範囲内で支援します。ぜひ、この機会にチャレンジしてみてください。

2. 募集企画

〈一般部門〉

募集テーマ	内 容
チャレンジ！鹿児島大学	【大学の活性化】 (例) ・学内の環境改善（美化）活動 ・学内資源の利用促進活動 ・大学情報の発信 ・障がい学生の支援 ・大学グッズの開発 など 【国際交流】 (例) ・留学生との共同研究活動 など

〈地方創生活動部門〉

募集テーマ	内 容
まち・ひと・しごと創生	【鹿児島県内自治体の地域課題】 (例) ・魅力ある観光資源の発掘とPR戦略の提言 ・商店街の賑わい創出への支援 など 【鹿児島県内企業等の課題】 (例) ・製品の販売戦略の提言 など

※採択件数は、「一般部門」5件程度、「地方創生活動部門」5件程度を予定しています。

(参考) 採択プログラム一覧

平成28年度

〈一般部門〉

- ・協働・交流・連携する図書館サポーター活動
- ・鹿児島大学宇宙開発プロジェクト
- ・熊本地震被災地復興支援 ～ボランティアアツリズムで繋ぐ九州～
- ・鹿児島大学郡元キャンパス内植物園のパンフレット作成と利用促進
- ・鹿児島大学ノベルティ「Kホルダー」

〈地方創生活動部門〉

- ・“かごんまのよかところ発信”プロジェクト
- ・鹿児島の魅力をPR動画で発信プロジェクト！
- ・八重山高原星物語2016
- ・大学生と徳之島小・中学生、高校生の交流ツアー ～島っ子に誇りを～
- ・鹿大×企業×地域「パッションボーイズ農園」～国際協力を目指して～
- ・薩摩トウガラシのブランド化
- ・ウミガメが種子島を盛り上げる
- ・鹿児島発！学生主導によるグローバル人材地元定着支援プログラム

平成29年度

〈一般部門〉

- ・鹿児島からエコバックでフィリピン・ミンダナオ島を救う！！
- ・鹿児島大学宇宙開発プロジェクト2
- ・NHK学生ロボコン出場に向けた駆動機構の研究・開発
- ・TSUNAGUツアーで鹿大生に新しい学びの風をおこそう！！
- ・地域の特色を活かしたインフラ整備に関する学生シンポジウムin鹿児島
- ・うたって、ねむって、ムシ菌ちりょう～全身麻酔下歯科治療の認知度と治療環境の向上を目指して～

〈地方創生活動部門〉

- ・かごんまよかところプロジェクト
- ・西出水！なこよかひとつべ応援隊（略称：西出水応援隊）（仮）
- ・八重山高原星物語2017
- ・ベル活（ベルマークにすればトナーカトリッジを離島教育教材にできる説）
- ・留学生+日本人学生による種子島のInbound活性化および地域資源発掘調査

3. 応募資格・条件等

■応募資格

本学の学部学生及び大学院生で、個人又はグループとします。
また、学生が主体であれば教職員と連携して応募することも可能です。

■応募条件

- ①卒業論文、卒業研究で取り組む内容のものは含みません。
- ②実施期間内に終了できる単年度企画とします。ただし、複数年を要する企画の継続申請も可能としませんが（継続理由を明記すること）が、次年度の予算を確約するものではありません。
- ③「地方創生活動部門」については、課題解決に向け、自治体等と協働して活動する企画とします。
- ④物品、施設等については、貸与（借用）を原則とします。（次項を参照）

■貸与可能物品（備品）の取扱い

貸与可能物品（備品）は、ノートパソコン(5台)、プリンター(1台)、ビデオカメラ(5台)、デジタルカメラ(4台)、カメラ用三脚(4脚)、タブレット(1台)、レーザーポインター(1個)、浴衣(10枚)。

大学の貸与物品以外の備品を購入した場合は、プログラム終了後速やかに大学に返却していただきます。

※備品とは、耐用年数が1年以上で、かつ、取得価額が概ね1万円以上の物品とします。

■支援予定額

1件につき上限20万円

■購入できないもの

上記の貸与可能物品（備品）、トロフィー、楯、金券・図書券等換金性の高いもの、お土産代、飲食代、自家用車のガソリン

4. 応募方法

所定の様式による企画書及び必要経費内訳書に必要事項を記入の上、5月1日（火）から5月25日（金）17時までに学生生活課に紙媒体とデータで提出してください（様式は本学ホームページからダウンロード可）。

5. 審査方法

- ①審査委員会を組織し、書類審査及びプレゼンテーションによる審査を行います。
- ②審査結果は、企画書に記載のメールアドレスに通知します。

6. 成果発表

本プログラムの成果は、別途成果発表会において報告し、優秀なプログラムは「表彰」を行います。

7. スケジュール(平成30年度)

◆応募受付期間	5月1日（火）～5月25日（金）
◆審査期間	5月28日（月）～6月22日（金）
◆結果発表	6月下旬
◆プログラム実施期間	採択後～1月末日
◆成果発表会	2月下旬予定

8. 問い合わせ先

〈一般部門〉 学生部学生生活課学生企画係（共通教育棟1号館 1階）
専門職員 鮫島 TEL099-285-7320

〈地方創生活動部門〉 研究推進部社会連携課産学・地域連携係（南九州・南西諸島域共創機構棟1 2階）
専門職員 加治屋 TEL099-285-7104

○鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム実施要項

平成25年2月19日
学長裁定

(目的)

第1 この要項は、鹿児島大学学生憲章(平成22年11月15日制定)の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施する様々なプログラムの支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践することによって鹿児島大学(以下「本学」という。)における進取の精神を継承していくことを目的とする。

(名称)

第2 この要項において支援するプログラムは、鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム(以下「進取の精神CP」という。)と称する。

(応募資格)

第3 進取の精神CPに応募できる学生は、本学学部学生及び大学院学生(外国人留学生を含む。)で個人又はグループとする。

2 前項のほか、学生が主体であれば教職員と連携して応募することを妨げない。

(応募条件)

第4 応募の条件は、実施期間内に終了する単年度の企画を原則とする。ただし、複数年を要する企画については継続申請を認めることがある。

2 卒業論文、卒業研究、正課等で取り組む内容の企画は不可とする。

(募集内容等)

第5 進取の精神CPで募集するテーマは原則として次のとおりとする。

- (1) 一般部門
- (2) 地方創生活動部門

2 募集内容、応募方法等は、別に定める募集要項による。

(審査委員会)

第6 一般部門の審査委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 副学長及び学長補佐のうちから学長が指名する者
- (2) 共通教育センター長
- (3) 学生部長
- (4) その他委員長が必要と認めた者

2 地方創生活動部門の審査委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長が指名する学長補佐
- (2) 地震火山地域防災センター長
- (3) 研究推進部長
- (4) その他委員長が必要と認めた者

3 審査委員会に委員長を置き、学長が指名する者をもって充てる。

4 委員長は、審査委員会を招集し、その議長となる。

5 審査委員会は、応募プログラムについて、書類審査、プレゼンテーション等の方法により選考を行う。

(採択者の決定等)

第7 学長は、第6の審査委員会の選考を経て、予算の範囲内で採択プログラムを決定するものとする。

(成果発表)

第8 進取の精神CPに採択された者は、事業終了後にその成果を発表しなければならない。

(採択の取消し)

第9 学長は、採択された者が次の各号のいずれかに該当すると認める場合は、審査委員会の議を経て、採択を取り消すことができる。

- (1) 企画内容と実施事業の内容が著しく異なったとき。
- (2) 虚偽の申請その他不正な手段により採択されたとき。
- (3) 本学の規則等に違反し、採択された者としての適格を欠くに至ったとき。

(事務)

第10 進取の精神CPに関する事務は、学生部学生生活課及び研究推進部社会連携課において処理する。

(雑則)

第11 この要項に定めるもののほか、進取の精神CPに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成25年2月19日から実施する。

附 則

この要項は、平成26年6月3日から実施する。

附 則

この要項は、平成28年6月3日から実施し、平成28年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成29年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から実施する。

(設置)

第1条 国立大学法人鹿児島大学(以下「本法人」という。)に、寄附金を原資とする鹿大「進取の精神」支援基金(以下「鹿大基金」という。)を置く。

(目的)

第2条 鹿大基金は、鹿児島大学(以下「本学」という。)が地域活性化の中核的拠点の構築を目指し、また世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に必要な支援を行い、「自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する」ことを目的とする。

(事業)

第3条 鹿大基金は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業の用に供するものとする。

- (1) 学生支援に関する事業
- (2) 留学生支援に関する事業
- (3) 国際交流に関する事業
- (4) 研究支援に関する事業
- (5) 社会連携に関する事業
- (6) 産学官連携に関する事業
- (7) その他この基金の目的達成に必要な事業

(構成)

第4条 鹿大基金は、寄附金及びその運用による果実をもって構成する。

2 鹿大基金を、一般資金と特定資金に区分する。

(一般資金)

第5条 寄附者から特に事業を定められていない寄附金及び次条の特定資金に該当しない寄附金については、一般資金とする。

(特定資金)

第6条 寄附者から特に事業を定められた寄附金で、他の寄附金と区分して管理運営すべきものについては、特定資金とする。

2 特定資金は、次の各号のとおりとする。

- (1) 国立大学法人鹿児島大学教育研究活動等支援基金から承継した寄附金(以下「支援基金」という。)
 - (ア) 支援基金は、財団法人鹿児島大学援助会(以下「援助会」という。)の解散に伴い寄附された寄附金(現金及び有価証券をいう。)で、援助会の目的(本学における教育活動、研究活動、施設の拡充及び福利厚生に必要な援助を行う。)を継承し、「自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する」ために必要な支援を行い、もって教育及び文化の発展に寄与するものとする。
 - (イ) 支援基金は、基本資金及び事業資金により構成する。
 - (ウ) 基本資金は、援助会から支援基金の運用財産として寄附された寄附金(現金及び有価証券)をもって充て、取崩しは行わない。ただし、必要と認められる場合には、第9条に定める運営会議の議を経て、取り崩すことができるものとする。
 - (エ) 事業資金は、援助会から事業の運営資金として寄附された現金及び基本資金から生ずる運用果実をもって充てる。
 - (オ) 事業資金のうち資金運用していない現金は、第3条に定める事業を行うため鹿大基金の一般資金に繰り入れるものとする。
- (2) その他特に事業を定められて寄附された寄附金

(謝意)

第7条 本法人は、鹿大基金への寄附者に対して謝意を表明する。

(事業年度)

第8条 鹿大基金の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(運営会議)

第9条 鹿大基金の管理運営に関する事項を審議するため、鹿大「進取の精神」支援基金運営会議(以下「基金運営会議」という。)を置く。

2 基金運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(運営費)

第10条 鹿大基金の運営に必要な経費については、鹿大基金をもって充てる。

2 前項の経費については、毎年度、その予算及び決算について基金運営会議の審議を経るものとする。

(寄附金の受入れ)

第11条 鹿大基金は、この規則及びこの規則に基づく定めによる場合を除いて、国立大学法人鹿児島大学奨学寄附金受入規則(平成16年規則第85号)により寄附金の受入れを行うものとする。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、鹿大基金に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行の際に、現に存する次の各号の寄附金等については、鹿大基金へ平成27年4月1日に承継する。
 - (1) 国立大学法人鹿児島大学学生支援寄附金は、一般資金とする。
 - (2) 国立大学法人鹿児島大学教育研究活動等支援基金は、特定資金とする。
- 3 国立大学法人鹿児島大学教育研究活動等支援基金規則(平成25年規則第22号)は、廃止する。